鳩巣獻可録

坤

内閣文庫
和書
三二九六九
二冊
一八二函
一一架

288

内閣文庫
番號 和 32969
冊數 2 (2)
函號 182 353

国立公文書館
National Archives of Japan

内
288

克明館藏書

文庫
克明館

克明館
文庫印

国立公文書館
National Archives of Japan

克明館藏書

大正
[illegible]

克明館
印
文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

克明館藏書

克明館文庫印

鳩巣獻可録巻之一

一 天下政治先正人心教道為先故古聖人之御並料簡の儀ハ上古
百姓ハの法制と定中事
の品々等ハ古人の論並料簡の儀ハ上古
天下政治先正人心教道為先故古聖人之御並料簡の儀ハ上古
帝の道と雖ども三皇五帝百姓以下の法度ハ夫々
の政と引繋ぎ綱紀と中ハ綱と申ハ綱と申ハ綱と申ハ綱と申ハ
万代華族と成ハ先ハ先ハ先

之分高世之智莫不奔走而服役者豈非以禮爲
之綱故天子統三公諸侯率卿大夫治士
庶人貴以隔賤以兼貴而君臣之分猶天地之不
可易然後上下相保而國家治安然禮非名不著
非益不形名以命之益以別之（別カ）然後上下粲然有倫
名益既亡則每得独存哉
右司馬光之意以上古一人天下の人帰服仕いたる
所智力量有之也當義和之制也中不義
也之威光中当也之天下の制法之也意
天上古古之義也自然少相遠仕事不能

成少当古之若是法無之也當出年合小歲
也之何事之立可戶数其小付名益戶
支名之穢式小付名目況定戶義小古之
若年号古例古面古居大番次大目附又小
何奉行何役下戶類小古之完是之定
不戶也小役義式接可戶数不古之知之戶
数義無之也益小第一名服之外乗輿乗馬
道具之身分付物其類古之名服
直乗大紋布衣之官服以為論其外紗張
絹綿絹物之貴織小之其不成定戶数

義を以て事を行ふの事を定めて当に貴賤の差別
を正しくすべきなり之を敢て右司馬光の論に若
益の事に之綱紀の簡要なるを
朱熹曰人君為治之本在乎正術以立綱紀所
謂綱者猶網之有綱也綱紀者猶絲之有紀也
綱無綱則不能以自張絲無紀則不能以自理故
一家則有一家之綱紀一國則有一國之綱紀天下則有
天下之綱紀若乃卿總於縣々縣々總於路（家朝ハ天下ヲ）
（二十四路小分ヲ諸路ト云）路總於臺省（御史臺尚書省皆有禁中政事所出之名）臺省總
於宰相宰相則天下之綱紀也

右朱熹の言に同意なり

一周禮周官百官を設置して小宰職を分ちて
小宰治之書に曰く小宰其法を六卿に建て治を
と鄭玄曰六卿冬官天地春夏秋冬の六官なり
一家宰天官第二司徒地官第三宗伯春官
第四司馬夏官第五司寇秋官第六司空冬
官なり六卿に中大夫二人下大夫四人
周の六卿と手本とす唐代
後魏の官職と建て以祖漢魏
後魏官職に曰く六尚書と曰ふ第一吏部尚書（周の天官小宰）
第二主客尚書（周の春官小宰）第三禮部尚書（周の春官伯夷）第四兵部

南書駒の同第五刑部尚書冠の同第六工部尚書冠の同
真河吏部八六卿の頭に高辛氏の人物動方と学味
仕へ天子に上辛氏進退仕候て学次に
部を天下の諸郡農民綱て北方に付て学ぶ
中央吏部に次て重き役高辛氏朝廷
礼の吉凶書に工部は造作の吉凶書の中に
辨じ其類と以諸屬に仕へ天子に
接し雖成相見へ唐虞代に如斯
朱熹曰周禮周公建太平基本如棊盤相似
布定後棊子方有数處

蔡沈曰六卿分職各率其屬以倡九刃之牧自
内達之於外　治教化治兆民之象莫不厚而化
成也

朱熹蔡沈の論仁義周礼に六卿に下百姓と
定て太平の基教化の首領に仕へ中に棊
盤の譬的中仕へ義に学ぶ其意旨定て
棊盤の面に同と云仕へ物に法に学ぶ
仕へ其後棊盤に中に所有之に学ぶ
中に所有之に学ぶ
政治に其道に学ぶ

八陛之下脫
二字乎

清ハ政教廉ニ可ト称無之ト
石隠ノ徳政 作出ス所相叶ハ勿論ニ称ス
義ヲ行ヒ 但宋程顥之論心有関雎麟趾之意然後
可周官之法度ト義有ル
の名高ク作詩文ニ徳門外ニ及ヒ上下皆
忠孝ヲ成ス事ヲ以テ周礼の法ヲ立ル
人心孝悌ヲ以テ格式ス
ト云フ可有之ト雖モ程顥ヶ程ハ格式ヲ実
義ヲ取ル人ハ前ニ清ハ人勧方ハ
殊有之ト十年皆勧ル者ハ石隠美ト称ス

如ク年ヲ経楽ル好人物不宜清ハ只成ル
ノ為ニ不ト為ル有之ト生ル不ル仕ル
帝ニ仕ル大切ノ仕ル有ル之ト上不成ル者
ハ為ニ汀ト清ハ石隠ニ対シテ
為ル大方ニ成ル事ハ不ル義相見ル
以実ノ成ル者ハ為ニ為ル術節ハ為ル
為ル生ル為ハ為ル為ル相守ル中ル
十年為ル義ノ程ニ成ル為ハ彼不実成ル者ハ石隠
ハ清ハ実ノ成ル者ハ石隠ニ
御代ハ生ル 御生ル為ル

真正堂塔を多く造り物を始めとして其天下を
取の　と遠ざけ遠ざけ大分の博奕小博奕ケ様の
類一通り兼り出来ず十年皆勢又弓射を専ら仕
手薄く国々の士の風俗と
取来り中古書今の風俗方為前代に為て高格
或年号に雅を寄せ有之と雖も軍陣に
自然と高金数相用ひ或定法第一に仕候品
定不申候て中絶仕候義多く出来士年怯弱
為働不申候たとへ年貢備定り出来如何
自由に成候方多く出来候程歟又手名に成
家治天下以正風俗得人才為本と申に是又皆
要と義を考へ　上の正英明に御坐候て能新之
くと出来付て遠代に六論術家に成風俗の
為に教行云　仰付是人才成随分に詮義遂
御相伝申に成上に元中初諸書類諸役人為
与得と合点仕候に付て仰付被之成の者共に
無御新成禁仕候士義に成候て改申
事多く候

四月

先祖の官位と云と其家の格に仕自分の果

進と称し中義異国に主例成有之べく
御尋に付中上に覚

一異国三代漢漢親に至て諸侯群臣に成り
代の元功加臣加成に高時の元老元年寄に等輩と超
越昇進仕候事同位の人先祖の官位に中義
同時昇進と称し支流木兼及義宗
たる周時周公旦公昇公荷伯彤伯衛侯代々
人臣卿の官に仕り執政の職に成所周
公旦公の子孫大方執政と成り漢文帝に
出る子孫も先祖の格に成て同時に昇進仕

中義を見合に中に漢の時光武帝の二十人将
何れ列侯に成り執政に成り同格に成り三公鄧禹
一人則百代の元功に成り大傅傅に成り其外の人同
〳〵昇進仕中義無之に成り東時大師頌普大傅
王且何れ執政に成り三公に成文侯博累朝
の大勲と成大師に成中漢文帝の子
孫に先祖の爵位と成り同〳〵昇進仕中義無
之に成上自分に新中義に成り勿論也〳〵不中
一漢に来唐に成て仕子又明漢に中文有之に
仕子に其文兄の間柄に其子弟と一人の為

二人高元中出ヲ相為ノ官ニ就テ其法ヲ門蔭
ヲ先祖ノ爵ヲ一門ノ門ニ限ル同族ノ者有之ヲ以テ二人蔭
ヲ官ニ成ル中ニ庶ノ子ハ蔭補ヲ与ヘサルヲ
晉ノ王導謝安魏ノ崔浩盧玄皆名家ヲ高ク
ハ子孫ヲ以テ代々ニ門地ヲ自負自慢ス又上ヲ人ヲ
全ク材徳ノ兼備ヲ以テ是古今弊政ノ一ト
ス唐ノ代ニ中別ニ九品ノ官人ヲ選ス人ヲ心ヲ
選ス人ヲ心ヲ選ス李取門閥ノ高下ヲ
曰傳 流 殷高宗 呂望 大公周文王ノ賢臣 或遺才ヲ以テ李沖
豈可以門地得之哉

孝文帝群臣ニ官爵命ヲ与ヘ以ヲ高家ノ高下
以官ノ高卑ヲ定ム之ヲ文帝ノ学ヲ不足
当ル李沖ノ中正ハ昔殷傳 說ハ傅巖ヲ
所ノ日偏ニ与ル大公望ハ渭水ヲ所ノ漁父ヲ以テ
是ハ何ノ門地カ市ノ門地ヲ以人材ヲ求ル
賢臣ヲ在野ヲ与ル中義ヲ以ヲ司馬温
公ノ公ノ愛ノ義ハ与ル偏ニ
選挙之法先門地而後賢才此魏晉之深弊也
孝文之賢而不能免其弊也故史明ニ是非而
不惑於世俗者難矣

古来官爵ハ三年の年労ニ拘リ授ケ
義ニ爵ニ光祖の官位ニ以テ自分昇進の指示
任義ハ有ラズ中ニ法ニ
一
右門蔭の法ハ昔王家の系圖ニ官ニ授ケ義
ハ仰ク義ハ法ニ自分ハ中ニ
儀ニ法ニ差有ニハ不孔ニ
魏王於光極堂（改事ニ出ル）宣下品令（品令是程の家ハ是程の格ニ程迄昇進ハ）光祿勲于烈子登ニ例ニ
朝理應簾而登ニ例ニ求進是臣素無教制乞行
黙帝魏主乃ニ見登留曰以卿又有簾源之美進

卿授尉ニ北史ニ見ヘ中ハ光祿勲ハ高官ニ
于烈ニ市看の子登ニ中ニ
外ニ昇進ニ郡中ハ其ニ于烈ニ
ハ仰ク辞退ニ可仕前ハ返ス自分ハ
昇進の例ニ求ル中ニ
ニ法ニ百官ニ
又の辞退ニ
ニ授ケ中ニ
宋朝ハ唐朝ニ市義有ニ
歳ニ味仕ニ三年ハ三ニ
卿授尉ニ市官ハ
ニ人の年労ニ
度五年ハ三年ハ昇進

中臣氏皇室ニ忠誠ヲ自分ノ本分ト書ス
ル者ハ中臣ノ義ニ非ラズ皇室ニ忠誠
家ノ格ト中臣ノ格トハ水ト火ノ如ク
中臣ノ義ハ皇室ニ忠義ハ家朝ノ流例ニ
基ク故ニ不善
支故ノ和ハ相見ヘ中臣ノ和ハ
以ノ中臣ノ義ハ
所ニ君ニ有之人ハ
宋仁宗嘉祐二年詔文武官旧皆陳元贞勤著
傷廉節載自今歳滿令審官院補任除爵ト
奉行之士ハ廉節無之ハ君ノ前ニ義ニ
以廉節ハ廉恥ト知ルベキ者ト失不
中臣義ハ皇室ニ忠義ハ
稱元贞文第一士ノ廉節ト傷中臣ニ
元贞仁宗ニ時代記有之不向後自分ハ奉
皇室ノ中臣ノ政ニ不
ノ方ニ安ンジ可仕ノ義ハ
張栻朋銓久不理年労上嘉其廉静詔栻時選
兩官銓磨勘四官張栻張南軒胡銓胡澹菴何
也宋ノ賢者ニ宋ノ每人ニ自分年労
ノ文貪着不仕ハ捨ル史不理年労

中山世譜家達ハ[illegible]の廉辭職義ヲ以藩[illegible]
の上毎人ヲ官ニ進ル礼法ニ[illegible]
存寄ヲ撰ム日年[illegible]家[illegible]ハ先祖の
皮[illegible]ヲ子孫の先途ハ仕ル[illegible]ハ国[illegible]
類ニ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ元来ハ[illegible]ハ[illegible]ハ
[illegible]ハ自ラハ[illegible]義ヲ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]中有[illegible]義ヲ[illegible]已上

七月六日

歴代選挙ノ事

歴代選挙の変　皆等年間漢ハ宋朝

一　天下ヲ治ル者ハ人材ヲ得ルニ第一の義ニ[illegible]
[illegible]ハ選挙の法無ニ当ル人材ヲ得ル[illegible]
也唐虞三代以来何の代ニ[illegible]選挙法無ニ
中ニ我[illegible]ハ但唐虞の時ハ上代ニ[illegible]
素[illegible]の変ニ[illegible]家の興の如ク[illegible]ハ[illegible]
存ニ[illegible]ハ[illegible]ハ猶飾の気味ナク[illegible]
相選不仕当ル其言ハ[illegible]ニ[illegible]人の[illegible]
又事ニ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

中比三代以降の官職を置く
舜典曰敷奏以言明試以功と有之は此義なり
唐虞三代之後周に至て選挙之法要を立
漢文帝元年に初て孝廉を置き
是より此二つの外に毎年義法を
諸侯に選挙の号要たり
一三代以前選挙之法有之は周の前は相知
る者に限り周に至て
法初て周礼に相見
周の代には六卿と建て
と治中は王門選挙大司徒の職なり
大司徒の卿大夫と中官有之人士を挙て卿
大夫士は周時畿内王都に近き地を六郷
後は中小を

人戈伐拳中ハ口淵教育の法無之ハ人戈伐生
しかり教育之法ハ教育ハ選挙之年与ニ生
徳ハ教育の法無之ハ人才日々衰微ス
周礼郷大夫三年則大比考其德行道藝而興賢
者能者郷老（郷老ハ官職之外小宿老なる人を云）及郷大夫師其吏以礼賓
之厥明郷老及郷大夫群吏獻賢能之書於王而再
拜受登于天府内史貳之（天府ハ宗廟ニ有る宝蔵ニ内史ハ右側之補筆ニ載之ニハ別ニ一通写し宝蔵ニ是）
大司徒ハ郷大夫ハ命して德行道藝を以人伐教を
為（郷大夫又各其下の州長黨正族師閭胥な
ども中官中沒し其他ハ教中ハ教
州長以下各其他の才德有人伐年々考味任免
ハ三年因ハ郷大夫中ハ選ハ郷大夫其伐一ツハ合
ハ考味任伐三年大比ニ中ハ其上ニ為淳員
伐有人ハ郷大夫並州長なる者ハ多数指て
改為賓客の礼を以聖を教し酒を進ハ是を
賓興と中ハ其前音を姓名と書付て天子獻し
淳ハ天子再拜して受取ハ先祖の宝蔵ハ
入れ置ハ伐例の補筆中史と字を書て追為補
任の淳中ハ其言ハ補筆中也ハ士を在京ハ伐
左右淳を五ハ司徒の支配ハ宝蔵常ハ都（後来伐

賞顯ハ中義ヲ成ス我等ハ時々選ビ出シテ
未ダ稱ス無之ハ賞ヲ上ノ下ノ段ノ賞ヲ
施サレ諸人見テ自然ト勤ノ者ハ甚タ考
德有人ハ天下ノ宝ニ当ル（天子ニ成ル重セラレテ）
其姓名ノ書付ヲ以テ文武ノ官ノ宝藏ニ
収ル延喜人ヲ大切ノ事ハ宝ニ当ル
加長各掌其加之教治政令之法ヲ月之吉何ノ月ハ何ノ日ト云
朔日ト云各屬其列之民而讀法以其德行道藝云而
勸之以糾其過惡而戒之若歳時祀祭別番屬
其民統法亦如之黨正各掌其黨之政令教治及
四時之孟月春ハ正月集ハ四月秋ハ七月冬ハ十月ヲ四孟月ト云吉日則屬民而統法
以糾戒之族師各掌其族之戒令政事月吉日毎月の朔日
則屬民而統邦法書其孝悌睦婣有學者孝悌ハ父兄ニ
従ヒ弟ニ従ヒ子ニ従ヒ婣ハ一族外親ヲ婣ヲ睦ヲ云ヒ
是ハ人倫ノ人ヲ書ス也ト書ス也ト書ス也ト云閭胥各掌其閭之徵令
凡春秋之祭祀役政喪紀之教聚衆庶既比則讀
法書其敬敏任恤者春秋の祭ハ社の祭ハ役政ハ公役の政ハ喪紀
ハ公義の喪ニ公役ニ公義の喪ニ公役ニ加孫の言合ニ
公義の喪ニハ三年遠息ハ云日数ハ
必家庶ト會ス和の不孝ヲ比ト云敬敏ハ
ヲ云任恤ハ
是ハ人倫見知ス和の名ヲ云
御大夫以下ハ有安ヲ高法ヲ一御の人ヲ大勢ニ
御大夫ヲ中ヲ以ハ吟味雖仕ル敬ヲ有ヲ小領ヲ有ヲ

人我と吟味仕り其吟味の法式為上前小右之通
別長ハ毎月朔日嘗共四孟月の朔日殊師ハ毎月
朔日読法の會有之一組の人々よりて集りて之義の
法度書式論文也三日ハ終日打寄互小酒と勧り
也と郷飲酒と申ハ其郷射の礼ハ射會と当一組の
人数中義也市ハ又祭礼の外公用の義有之
必要之會仕候會義中ハ見之之知之人々の言行よ
り相知り善ハ進之常之之組之親之可疎遠
之之古人の明智之之人我之自利ハ可離
仕法也只今諸類諸侯人小の自利と以只礼式

一通りの出合当其人の学量人柄相知り申之学
一礼記王制曰命郷論秀士升之司徒曰選士司徒論
選士之秀者而升之学曰俊士升。司徒者不征郷
外於学者不征於司徒曰進士
是ハ上郷の大夫各毎の秀士を司徒小送司徒又之
門小秀たる者と選之大学校小送り郷大夫支配
の門郷大夫支配と申付之司徒の支配ハ郷
大夫の役ハ勤不申候之司徒又役と申付之和小
役ハ書勤之之申義と成申ハ之之学校
小付ハ候ハ司徒の役も勤不申只一筋小学問仕候

て法政德と善と中外に無之に是を選ばれ
大樂正論造士之秀者以告王而升諸司馬曰進士
大樂正ハ学校ノ主管ナリ司馬ハ官爵ノ事ヲ司ル手ニ口名リ候テハ造士ヲ改テ進士トモヲシ候
進士之賢者以告于王然後官之任官而後爵之位
定而祿之　是ハ司徒ハ学校ニ送リ以士ヲ大樂正
論教日夜学問の道を教ル為成就仕候為其人の
所為故食義いたし　王ハ我相応の官と定ル年論
官我と中ハ王後食義の徹と王ハ告ル為官祿と
授ル義なり
右周時元来国々ハ学校有之風俗宮ニ上ル人君賢人
政と重セラレ出ル諸侯諸大夫士庶人ハ学校ニ入ル
ハ其人我と選ル出ル　賢能の人文数多出事
ハ其上ニ為公卿歴この子孫同事ハ学校ニ入ル
當時の後式作法述給熟仕ル後王ハ職と授
中ハ其故周の時ハ百官ハ学校ニ入ル者其
業ハ学ハ人ハ無之ハ漢ハ後歴代ハ学ハ其業
一ニ及ル中ハ義ハ相見ル不申ハ
一漢高祖十年詔曰賢士大夫有肯從我遊者吾
能尊顯之布告天下使明知朕意御史下郡守
其有意孫明德者必自身勸為之駕遣詣相国府

署行義年

代時高祖創業の初に為選挙の法を未具に為て
下に詔して賢人と求む郡守に命じて
郡国の門に徳に出かしむ程の人に郡国其家を
去て道中車駕の長安に取持に相国の府と
送相国の府に為て議義其人行状並年歳を府中
の役人連署に為て上に為る人の員の多少に
云諸役人
乗所也
漢以人材を選挙仕に上に為る人員の多少に
ら未だ定まらず毛頭目に可の者に挙させ其を科

目に中に科目に為挙に為る科挙を立て賢良
正直賢徳有て正直人 直言極諫 直言を諫スル人 孝廉 孝行ニテ廉潔ナル人 賢良文
学 賢徳有て学問 精熟ナル人 茂才異等 才智ヲ以テ抜群ナル人 其外代々時の
省 (上) 有之 為 法を皆り不中に是
に中に
漢文帝二年詔曰三執政 三人執政ノ大官ヲ云 挙賢良方正
能直言極諫者以正朕之不逮
又十五年詔諸侯王公卿郡守挙賢上親策之對者
百餘人 策ハ簡策ト云古紙無之ヲ竹ヲ削テ記シ申候 凡選挙ノ人ニ
上ヨリ天下ノ政務ニカリ候難問ノ度ヲ簡策ニ記シ候テ出サレ
候ノ策ト名付申候 上親策之ト云天子御自身ニ問尋ナサルヽ申候コトヲ
制策ト也制挙ト云申候 其對ヲ申上候ヲ對策ト申候 此時對者百餘

今元中ニ賈山晁錯ト申モノ、對策御意ニ應
候ヲ官ヲ召セラルヽ漢書ニ見エ申候

武帝建元元年詔丞相御史（丞相ハ今ノ老中御史ハ今ノ大目付）舉賢良
文学之士　又元光元年令郡国舉孝廉各一人

武帝の時之自身小策問せらるゝて董仲舒公孫
弘なとゝ中者對策仕候事ハ進いゝ
しハ統中董仲舒小ハ武帝之三度之推問
策問せらるゝ之對何家之人小條出乃義ヲ申
候ハ小委細之漢書見ヘ申ス

昭帝六年詔有司問郡国所舉賢良文学民
所疾苦

官小ハ時小當リて之ハ人ヲ有司ヲ
申ス然時有司ハ丞相車千秋御史桑弘羊ヲ申
者ニ何之歴々小ハ當リて天子の名代ヲ之時
分舉ラるゝ小賢良文学の士小中の雅義する事
ヲ為ス其對相意成義小ハ文學書見
申ス然外前後漢ヲ小代ヲ天子毎度丞相公卿
ヲ初之王家の後人ヲ外群守之遠方の後人ヲ
兼及ヒ人物ヲ舉ル相ヲ之ハ中ハ其上古ノ
進賢之変上賞敬賢ヲ顕戮ヲ申義有之道
漢の時ハ賢物ヲ毎度舉ル人ヲ之ハ

之又上ヨリ仰出ル為我儕我輩市井人と云ふ
と雖上歳ハ其高ヘ之將分の諸侯人事我儕
有人と云業出ル為中上ハ之者と
有ル為我儕有ル上ハ見出ル毎之者と雖
支配中義之無之第為業次第中上ハ天子或ハ
政勢の変と云業と成ル為ハ寄ル所生産
歳ル為ハ或ハ有司と成ル為ハ相生業と成
金義歳上ル為ハ中ハ之者ハ生産小商
五十歳ハ其間小豆多相見ル者と書ル
官位仰付又ハ高ク三署郎ハ三署郎ノ下ハ見不申候ハ入置

為ル為ハ中間仰付其我と成ル為ハ年ハ者
と云金馬門宮車門出常ハ何候ハ之者ハ所節ハ
の変ハ有之ハ簡ル為ハ金馬門之車門ハ禁中ハ
王民金馬侍郎ハ車徴死ハ中ハ主張之官
有之ハ為相勤の官補任と成ル
漢制刺史守相別ニ刺史アリ郡ニハ守アリ郡ニハ相アリ相ハ家老ノ下ニ郡ニ一列一郡ニ治官
長ヲ国ニ相ハ家老ノ下ニ漢ノ時分諸
侯王ノ家老ハ天子ヨリ仰付ラル一国ノ政
者調ハ所味ニテ二ツアル多云僚属ハ下役ノ官ヨリ挙為秀我廉吏
凡ル仕ニテ下ニアルモノハスヘテ民ト云
而貢於王廷秀我ハ秀ル我アル人ヨリ廉吏ハ廉潔ニテ役人ニ可成
人ヨリ役人ヲスヘテ吏ト云秀我廉吏ノ二ツハ上ヨリ御ヨリ寄ナリ
散人ヨリ多拝為郎屋三署者無常員或至千人属光禄

勲部ハ禁中ニ宿シテ無役ナル勤仕スル者ノ通称ナリ　ナル人ノ初役ニテ御
坐ノ具宿衛スル舎ノ署ト云故三署ト云光禄勲ハ三署部ノ主ル
官ナリ光禄勲後於三署中銓衡部吏出為他官補
欠員銓衡トハ我ノ高下ヲ
貪義ニテ次第スルヲ云
是ハ郡国の吉護ヲ主ル中の賢者ヲ撰ミ京都ニ
献ル時ハ多ハ高ク部ニシテ与ル猶至ル多ハ郡次第
ハ自撰ハ定不中ハ多時ハ少人ハ亦中ハ光
禄勲ニ書ル主我ハ紙ヲ会義ニテ行ル意
役人の欠たる時ハ此内ハ出ス補ル
右両漢選挙ニ法大略如斯ニ雷同の時の如
隠行道艱ヲ以ル人我ヲ教育仕法無之只一
通り神目ヲ以選挙仕ル法ニ雷同の時の如
ヲ撰ミ其人年生の行ヲ考ル時ハ其上ヲ以時勢ヲ
尋ル事ハ計ヲ支ル職ハ中ハ高ク其勤ヲ見
中ハ礼楽典ハ有之ハ数義以言明経以切の意ハ
ヲ以ル事ヲ支両漢門外の諸官ハ賢能の人翁
ハ中ハ宏周ハ及不中ハ魏晋以後の法ハ
中義ニ法ニ

一

魏文帝時立九品官人之法

晋起依魏九品之制内官則有吏部司徒左長史
外官則列有大中正郡国有小中正皆掌選挙

鄉貢ハ後賢良方正等ノ科目ヲ以テ人材ヲ
舉ル中ニ漢ノ武帝ノ時ニ始テ博士弟子員ヲ置キ
九品ノ官人ヲ生徒ノ後人ヲ以テ吏部司徒ノ長官
世ニ及ヒ是ヲ鄉舉ニ比シ九品ノ官人ハ元聖賢ノ分ニ
世ニ所有ノ人ヲ又鄉舉所有一藝ノ言ヲ以テ
義ハ雖仕ヲ上ル九品ノ官人ハ智ノ長ニ
仕ヲ以テ其故ハ品ハ地家柄ノ
分ノ外ハ無官ニ是ハ俗ニ言ヲ
高門ノ歴々ノ家ナリ上品無寒士寒士ハ卑賤ノ家ナリ
家柄ヲ以テ高官ニ昇ル人ハ
代々ノ士多ハ

一
河漢ノ時ハ其俗隋唐ニ始テ罷ル
元選舉ノ法ハ科舉ト銓選トノ二ツニ分ル科舉
ハ科目ヲ以テ人ヲ取ル是ハ白衣銓選ハ功
勞ヲ以テ仕ノ人ヲ取ル世中ニ白衣ヲ漢ノ
後隨ヒ次ニ考績ノ官ハ始テ兩
途ハ分ル科舉ハ礼部尚書是ヲ掌ル銓選ハ
吏部尚書是ヲ掌ル中ハ宋朝ニ成テ通ル
是ハ分ル宋科舉銓選ヲ分テ記シ
科舉

一
唐制科舉之法有三由学校者曰生徒由州縣

者曰御貢皆外千有司進退之其天子自詔曰
制挙所以待非常之才焉（学ト八国子監ト大学校トノ二ナリ館ト八弘文館ト廣文館トノ二ナリ是ハ常ニ学生ノ集ル所ニシテ其学生ノ中ヨリ選出サレ者ノ生徒ト云又州縣ニテ教能アル人ノ其如ニシテ既ニ選ノ後都ニ送ノ御貢ト云此二ツノ外ニ非常ノ我ラハ有司ノ吟味ニ不及天子自ラ試ラルルヲ制挙ト云是ハ格別ノ事ナリ）
唐時科挙の目色々相見へたり毎年常試
科目明経進士の二科ハ当常ノ明経科先
時務を相試ルに之を後経義と尋ルに其ハ
時務と相ともに其ハ経義ハ只一篇相試時
務ハ策ノ策ノ中ニ五篇ハ主設時務策ト云
然て対ハ当世ノ文章論ノ中ニ当挙司
選挙ノ司ノ人ト挙司ノ人
所ノ収取ノ門ニ当又優劣有之故明経ハ甲乙等
の四科ニ分て進士ハ甲乙の二科ニ分ル其科
ノ中ニ分て優劣ハ有之ル主科第ハ八ノ中ニ
すて及第ノ中ニ科第ハ三ノ中ニ落
第ノ中ニハ当世ノ故選ノ中ニ取及第之士ハ其
燈名を記シ上ノ進ノ上ノ是吏部尚書ノ
選ハ吏部又其上ノ吟味ノ後天子の沿貢と
兼て官職と相応ハ之づけ中ニ其試有後ノ中ニ
常選之外（常選ハ明経進士ハ）天子又
義理的中文辞明白

自詔挙四芳德行才能文学之士其名目如賢良
方正直言極諫是漢ノ時ヨリ制挙ノ科目ニ軍謀弘遠堪任将率軍謀
ニ明三ヶ大将ノ器量有リ文詳明政術可以理人之類時政ニ詳ニシテ人ノ治ヲ理ル皆隨人
主一時所欲而設之日或有殿廷天子親臨観之文策
高者特授以美官其次與出身
也明経進士の外ハ天子の不時ハ思ヒ召シテ賢良
等の科ヲ以人材ヲ挙ル所の時ハ直ニ集問策ヲ対
の法ヲ立ル者ハ美官ヲ授ル其次ハ出身
ヲ与ヘル出身ハ其人の姓名光ヲ出シテ登カ科ヲ
列ス所作ヲ義ヲ吏部ニ申送ル文ヲ送ル

吏部是ヲ撰ブ試ヲ以テ出ス日ニ試ヲ付ス相
見ヲ申ス

一 宋朝ニ至テ科挙ノ法行ハレ唐ハ法ハ句読ヲ
ハ詩賦ヲ以テ其試相遠ク有ル情ヲ大分ハ義ハ
ハ唐ノ代明経進士等の科目ニ設ル所ノ試ニ有司
考試ス試ハ天子詔ス試ル事ハ唐の格ニ
同ジ文ハ法ニ

一 三代人材選挙ハ德行ヲ第一ニ仕ル句読道藝有
者ヲ挙ル其時分の藝ハ六藝の外ハ無之ハ
六藝ハ皆有司の事ニ德行ハ添ル物ニ

漢の時分迄ハ三代の遺風有之ハ賢良孝廉抜の
科目と云ふ事ハ有人と挙申し郷書次第ハ選挙
と云ふ所ハ唐ニ至り只名目計ハ古風ニ成り隨唐ハ宋
朝ハ専ら人の德行と選ハ詩賦と進士明
経の二科と云挙申し此二科ハ日比文章と詩賦
申ハ及第仕ル事不成故年生文章成業
申ハ学問之経史と能覚ハ及第の方ハ合点
仕申ハ詩賦ハ唐ニ挙申ハ德行の合義ハ
無之詩賦ハ只其文章巧論の上ニ善悪と選
申ハ唐ニ其上隨唐ハ宋ハ詩賦の科有之ハ
進士明経ハ出身如ハ詩賦と文藝史故詩文の方
有人の世用ハ多名ハ所ハ出相之所ハ宋
時ハ詩文ハ其通ハ唐ハ勿論人物ハ学問
德有人之大分出申ハ詩文ハ及第の人ハ不行義
所之多有之ハ無唐ハ宋及第之中半ハ人
材と詩申ハ唐ハ学問ハ文章ハ虚文
日ハ長ハ実行ハ日ハ短ハ大ハ無実行
義と成ル

選

一唐制元文官之選吏部主之毎歳以十月會參省

省ハ尚書省ト云ヒ吏部尚書ハ禁中ニテ公事ヲツトム処ナリ 凡選之法有四曰身体豊偉（貌）二
曰言辞辯正三曰書楷法遒美四曰判文理優長
四事可則先德々均以才々均以労五品以上不試上其
名中書門下（中書省門下省尚書省是ヲ三省ト云禁中ニアリ皆職事ヲ取行名ナリ其内中書門下ハ別ニ大切地ナリ）六
品以下始集而試觀其書判已試而銓衡其身言
然後以聞奏者受旨而奉行焉謂之奏受其視
品及流外官皆判補之凡官受成皆廷謝
凡八品の將身言書判の四事を五官の士試選ヒ
別人物を見る事を體貌を偉しく言辞振過
見たりとして楚包なりとして言ハ口上
之事を言辞辯正ハ物の見ヒ明らかにして
要をとしたる書ハ手跡見るに楷法遒
美ハ公義向の書物ハ行ふ用ハ西の字の見
事成とする楷ハ楷ハ正字なり判ハ
議判なり云ふ云ふ文理（訟）優長ハ
して高堂ふさもせ凡ての事文理出
其要斷ハ詞文言道理なり文理優長ハ
四ツ書ハ楷ハ行ハ真上ニ成ル
と年労ハ言ハ人物を合ハ德と
八吏部ニ成ル職ハ其姓名を中書門下の兩省ニ

上達仕候儀者右等者の吟味の上其不届なる事
故と申仕六品以下役人吏部より中上に為相
談之世に其外左京亮殿無之者の役人
中務丞判断して其人相違の役人猶しかれ何之
役一統に参内仕候て御礼申上候事迄
申上

唐朝業官位の儀階上の上の中上の下と一階
三階宮に敬 中下合九品相定候品とも
品に分れ云云ふる九品に准ずれ其
外無官の者といふ〳〵流外とも

宋仁宗時議者政事を論ずる以身言書判為無益乃
罷之身言書判の内判は人の才識を見て定る著
之事なれ共古人の中偽詐を以て
仕る判録して才を見る内若不能成に付家
朝に初て食禄有之先年相見へ
一唐玄宗開元中裴光庭と者吏部尚書張
説と上奏文に向後左右の士一統に年労の
次第を以て進退仕候に付毛頭偽
自身能無之者と其職と無之者と初は年労
次第進退仕候て才能有之に成年労の

次第と雖ども義ハ不絶候哉と循資格と申ハ
循資ハ物ノ下地ニ成候ヲ資ト申候其人ノ旧功ノ下地ニ成候
次第ニ昇進イタシ候故資ニ循ト申候意ニテ循資格ト名付申候
凡人を用ふハ才能次第の義ハ古聖之存旨ニ候
と因幡ハ奉られ候ハ百里奚と宛巷羅
民間ニ年ヲ畜居申候中より奉られ候ハ勿論此時家年ヲ
ちゝ不用ハ無之ハ此時ハ
中義ハ不兼ハ書文公即位の初群臣小皮職奉
せられ候ハ旧族と昭ノ功ハ
ハ此時又善能と奉之賢良と時ハ
備ハ見（中ハ三敬晉（長ノ）臣光（中）輔の後就ル旧

勲と大皮職ハ奉られ候ハ
皮ハ民家ハ即時ハ奉ハ下軍大夫と中大夫
ハ此漢の時ハ公ハ
参陳平周勃侯就之旧功と大皮ハ仕せられ候
又將任の次第之郡守ハ二千石ハ公漢時ハ二千石と中皮ハ
例郡ハ治ル皮ハ制史郡守ハ
上ハ郡ハ稱と設名ハ設ル二千石ハ九郷ハ公九郷ハ
御史大夫ハ公御史ハ公廷尉ハ階級ハ有
ハ家ハ才能有者と小皮ハ
ハ次第と不次と云推用せられ候賈誼ハ初官ハ大夫
ハ公孫弘ハ徒歩貧賤ハ
ハ公宰相ハ公ハ長

当代人材を自由に用ひ給ふ人無く勧励して
若し法を犯る輩は新資格と称して
碌成人に　英将成る人に面接し給ふ恐と志
く常に御家格に其職を勧め来り出格之
く後魏の崔亮と申者始て選挙の法を定
て後漢法度中に屢幾光庭選挙と申り時分
定格に成り是に倣て宋明に至て通法
称中日本に多く載家に資格と称て外に
無之是第一官長たる者人を自利仕る支雖
家門に只資格に頼て大成相違無之不

なく相違仕る家業の職を専一分に申分
家職成に成たる者に庸医人の病を療する仕
古の名医の如く人の病根を見て大海之剤
手際に邪気を去り支雖成も高名和成薬を
用ひ当座に其ふくに命を長し市に繁
潔に早意中腹の痛に見て市成病
の目利不成のふりを古人の如く療治仕
たる者に市に成て発長たる者に其
職に成ひ申ふく医長に成て人の賢否
元相違に見て可中義法に

宋の將鈐選の法文治六年武治七年勉ハ之
年号ニシテ 物任作ハ即郡官家の資格ニ然
ルトモ其外ハ舉拳ニ与義有之ハ毎年公卿又刺
史牧守 刺史牧守ハ郡也州縣の官人ニ所
所知 所部ハ組下の人ニ所知ハ見知ル人なり 之間
ルトモ世ニ益量ハ劣ハ進用セラレハ常格
ニ外ニ法ナシ

一 大祖時元被拳擢官於諸命 舉類 署其舉主
姓名他日不如狀則連坐之
漢唐以來元長官ハ人毎歲舉狀ヲ一人ヲ
二人ハ
上ハ薦ハ長官ハ後の狀ハ法歲ハ其ヲ保舉ニ与ハ
保物ヲ法合ヲ与保舉ニ与ヲ人病ヲ
法合ハ舉中ニ数ハ法ナシ
ら来ハ時ヲ元ハ宣ハ雖ヲ保舉ニ与ヲ長ヲ法ヲ
也ヲ法合ハ主人法合の如ハ無之ハ法ハ主舉
主法ヲ長人ヲ同ハ連坐セラレハ也ヲ舉主
連坐ヲ云 互ニ法狀ハ法ヲ法ヲ也長
ヲ人長ヲ配ヲ賢否ヲ常ニ見ル狀ハ知無ハ
斷不休
藝載曰今且有人牧牛羊者而不知其肥瘠是可
復以爲牧 爲之不知則改同可以罷免而不足惜者

羅完ハ官ヲ取アラル事ナリ

其人の牛羊成群して牧之の其所なる牛羊の肥なるを見て驚なるを知らるる甚如し人の欲する所の財産なるを知る故に人の

右の階級なる不法なる人の頭を云へる故に人物を人の少し之殘念なる事なり云云

一 明朝銓選の法諸司別縣と異別縣ハ遠方の役人なり

出六年号の遠近ふまえて特任して進士及第の人ハ科第の言下ふまえて授官ハ清廉勤

号人ハ敏ハ又財産ハ日を以者常格ハ拘ら階級を敏く撰用せ事を出ハ中く唐家の及所ハ中ハ中ハ

一 明太祖謂吏部曰資格常流設耳若有賢材豈拘常格今後廣官有才能居下位者高下其間

原本閲本煥文自西安知府（西安ト云所治務ヲ掌ル）貫震自全鈔提舉（金銀出納ヲ掌ル）但擢為戶部侍郎

是太祖吏部ハ命せ事ハ常格の人ハ之を取

舉ふ事ハ財を無ハ用ハ出ハ用ハ出ハ財ハ用ハ常格ハ拘ら事ハ今より後

廣言の門材能有る者少なく不審
不法の法等と解くと云 也と用へし其義を書槙文書震ル
とやうしき言ハ古ハ言安ル拳ら者也
学ぶ右親書ハ唐家と歴る明朝ハ武選
拳の法大略如通る也

軍法兵書ハ精く武藝ハ精く者を
撰く選拳仕ハ武拳と云ハ唐高
宗の時ら新ら代く兵部尚書也
と云りハ

唐武拳記参武后之時武后ハ高宗ノ后則天皇后ノ夫
ナリ高宗ノ時ヨリ政ヲ取行高

宗崩御以後ノ唐ノ天下ヲ危クナシ候其制有馬射ノ歩立射又有馬槍ノ馬上槍朝
関員重之選翻関員重ハ朝ニカラワザノ長唐武選兵部主之取其
躬幹雄偉驍勇材藝及可為統帥者
是武人の門生ハ文武兼力ハ武藝ハ
達し士卒の親ハ可成者ハ選ハ義ハ正ハ
一宋仁宗天聖八年親試武拳十二人原本閲而後試之
是ハ天子ハ賞ハ其人の弓馬を閲ハ武ハ
軍法兵書ハ識ハ義ハ正ハ
慶暦六年馮維師奏武拳以策為去留方
馬為高下

是ハ武事之部中上ハ明経進士科の如く軍
書軍法等の雑問と多策して真当的中を
期とし間々及第之世ニ不相過の者と落ちて
数ハ人不少其及第ハ間々高方馬の優劣と言
ハ法定ると中義ハ正ニ
一明大祖令有司曰應武挙者先試弓矢次騎
射俱求実効付虚文（弓矢ハ古ノ六藝ナリ騎ハ兵法兵器ノ云）
是ハ明大祖の時武選と者ハ合せて
軍学と云馬と云吟味ハ中ハ者を不案
用と云ハ也任意通ニ行武と知ル
応武挙の法有時如此ハ三代の時ハ文武一
道と文武可用時ハ文ニ用武可用時ハ武
用ハ也御之六藝の内ニ高見武射ハ武藝と
云事義ハ無之ハ漢の時ハ初高射の士武選
為天子外ニ行軍の時諸次警衛の為ニ選ハ
是と羽林郎と云ハ漢の時高選ハ人の
吟味と云武挙と云義ハ無之ハ主後文道日
日ハ衰ハ付天下ハ叛逆盗賊多出来ハ故
専武力ハ不用為制ハ也と実狩
と陽可中高ハ騎射高力の士と者ハ拘事

[illegible]百官文官武官[illegible]二ツ[illegible]
[illegible]文選挙の法文唐[illegible]家武挙[illegible]家
[illegible]是[illegible]第一勇力武[illegible]の士[illegible]挙[illegible]人材[illegible]
[illegible]為[illegible]雖成[illegible]法[illegible]唐家の名[illegible]名[illegible]
警武挙の門[illegible]出[illegible]

追加

唐家[illegible]世[illegible]選挙[illegible]の御尋[illegible]
當時[illegible]の[illegible]
[illegible]
作出[illegible]追加[illegible]

一 元人文選挙の年[illegible]
[illegible]不[illegible]人[illegible]不知不[illegible]
有之文[illegible]
可申[illegible]
[illegible]

大獄[illegible]伊[illegible]
中の[illegible]義[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出申ハ其者ニ而ハ出ス只今役者ハ出ス時
分各会義之儀ニ無之ハ出ス日ハ各ニ出ス人ハ存知
少人ハ又ハ門ニ義及ル人ニ門ニ出ス事
中家ニ出ス少人ニ可有之ハ出ス及ル時成者
多ク有之ハ常ニ一方ニ出ス実ニ成者ハ各ニ
日ニ三度不申ハ各者ニ不見ル者有之
花相ニ者ハ門ニ出ス時ニ人可有之ハ当而
後ハ各不参ハ者ハ門ニ会義ニ出ス事
何程ニ出ス申有ハ能ニ出ス当
常ニ疎遠成者ニ門ニ選ハ新人ニ成

成ハ是ハ形部一言申ハ少貴殿ハ形部殿ハ
の者ニ而ハ出ス役者中ハ役儀ハ兼ル
ニ成ニ其儀ハ閑雅楽ニ出ス時ハ出ス
一只今参会組大勝打ハ近者ニ芸能ニ
出ス者ニ者年寄ハ出ス毎日参会ハ
何度家来ハ出ス毎日参会ハ
吟味ニ不成ハ儒者醫者ハ外ニ役ニ仰
付ハ又ハ右参会組部屋ニ仕ル不苦
年寄ハ御者参会組御書院番組ハ中ハ
形部組ハ普請組ハ十人組元ニ生ル諸

士之組高低差

一 右之通諸組相定而其上ニ高漢の賢良方正
孝の科目有之組ニ諸組ニ選挙の法ニ倣
可申歟其外之義歟

一 行状 遺事 遺文 義歟 家状
右ハ士の大節小節ちゝ長程の事
一 方略 方ハ的之射ハ方の事ニ
也免ニ方略ハ中ハ方の事
一 学文 四書ニ五経演義
英文ハ方の事

右之ハ係ニ諸組の嫡子三十歳ニ内二十歳ニ
の者の義ニ高低ニ二ケ條程の事ハ士の方格ニ
只今之ハ外無有ハ之ニ程ハ設ニ

無之ハ風俗悪敷ハ外ハ之ニ随ハ教ハ格
ハ不申者之ハ相見ハ中ハ向落ハ無之故
作法ハ命ハ格ハ中有ハ可申ハ
格ハ大小相違ハ者ハ其数分相応ハ可為 作法
世有其数ハ役 作法
中之ハ仕置

一 すべて世ハ猫ハ如ハ人
一 すべて実体ハ言ハ正ハ
一 すべて世ハ物有ハ落気ハ人
一 又毎ハ物者ハ或ハ親族ハ頼ハ其

外何ノ当義人ノ事ヲ〻ヲ奇物減ノ〻有人

一　与馬ノ選〻左ノ如ク人

右箱組ノ内三十歳以上ノ人ハ格ノ合ヲ有之

ハ〻箱ノ言ヲ不限ヲ鎮ノ有ノ者有之

其方相委ノ書付ヲ新包作ヲ上ル報ス

作付ヲ以ヲ

一　箱組ノ内右〻格ノ合ヲ有之ノ者ハ左ノ如ク

ヲ上ル与選士漢ノ者ヲ大事ノ

書ヲ以ヲ先ヲ公ノ書ノ後ヲ以ヲ

成漢ノ三署即金馬侍郎三署即金馬侍郎前ノ如相見ル中ル

な

ヲ格ノ濃〻熟ヲ以ヲ

加ヲ〻相結ヲ在所御寺ノ者ヲ有之

又不時ノ点使ノ者 作付或ハ注書ノ者

左右選或ハ又注〻注義 拓ル 作付ヲ

量ノ程ヲ注〻相知ヲ中ヲ

以書明ル以功ノ者ノ当注書

其後箱後人ノ内有之ヲ右選士ノ内ノ

選〻益量ル作付相選ノ者ヲ可ル 作付

ヲ内状ノ出群ノ者ヲ身輝ヲ階級ヲ

右稽不成格外ノ品取立ヲ選ヲ諸人ノ

必服可仕之事勿論

一諸組頭之其年生隔之者いてハ諸士の善悪之
儀ハ相知申ス官義ハ周の賞興の法ハなるべし
こと者こと際の時分ハ一献ハ之すべ免後ハ出合
ハ仕度物ハ出者こと勿論出合ハ時分ハ只士の
風義と乱不申文武の義と忘無ハ仕連
可申儀ハ其組ハ合用之ハ者多出来ハ
幕ハ不可致君義ハ使役仕度事
一諸組の内不行義成者有之ハ者之数たる者
再三いけんを加ハ改申也可申ハ二度ハ改ハ

中ハ言上可仕若之ハ仕者ハ外分相
知申ハ又者其者大成不義仕出ハ之変
成可致 仰付被成 仰渡可致事
八月四日
江戸表の義ハ水道こと義申上新温泉
有申上者被 仰付ハ少ハ出ハ之ハ
上ハ
一高橋氏ハ大坂陽ハ義ハ 仰渡ハ今
雑義度ハ義ハ年貢ハ風ハ大風の
時分出ハ仕ハ中こと今ハ雑及年貢ハ

[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

中[illegible]今[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

道水道有之所以天地之火災出来以自中出先
年兼中に其後唐人中如〻長崎に大災有之
何故に水道に有大災有之と中義に何共之兼
に無之唐人に帝中に有右之元人共之中に唐
書後漢風の相違と云合て御稚尤有之故
に唐書に水道に時唐年中出来仕て之後水之
手当〻に為方〻に水道に新中に呉合江年中
に中に機と織中に〻組稚十文字に水道有之
に相違有之故に北狄と繽堀中に製仕て内
法に中に相違之に風に荘子と大堀の意

と中に為元寸に為水中に為元来天地の上の形か
生中に無之前に北気と相に中虚に在如〻に
抱中力無之に付近年大風に必相違に
且つき中に故に作火と火に相風に違
に盛に成に十干生の外に義に中違に
其の面に北に気と合に帝に潤に前年
湯に〻言　去の潤に水道に稚に昆同
気相水に道理に為に中に夫面に土に潤無之相乾
中に其中に為生〻中に風に為に風に時に乾
為燥火と稚〻に相年に乾

一陰陽陰の極数に当る故に易の卦に為象
水に数文風に象り雲に水に風に同気に応ぜ
雷水に為水に生ず此一風数の生ずる所
雲に雨数の通ずる所有之物に応ずる象
況中大年水道流通之地下に常に風と合
居に雲上金剋木に為風と金気に為押す中
所に貞享年中金銀銅有之世界金気之
精に成て損じ為て破物故近年別に風
吹に依て

一先日年稿勘水道破損に付大災無之義始に
[illegible]字等合体和等之理
[illegible]に古来水道の当火災の為防[illegible]
[illegible]有之に外に存[illegible]中義無之に林大学頭
[illegible]に相新[illegible]中に第一懸成義之有
之に沙無数義[illegible]
一右之通に陰陽に水道に潤し中成物に応ず
[illegible]高春に知に指上に書[illegible]通に陰陽之
江戸中大方の水道に応ず[illegible]に潤し
中義雖然[illegible]具上高地の地程東南
[illegible]海地に為数文[illegible]

たる事なれ共中比より城郭堅固に成て大
名の造作に成て居人の力に難及に成て朝夕
水に難義仕候ゆえ
作事小物に業者に無之ハ下石垣泥洲迄ハ水道
無之故居人朝夕の難義に成て其他諸
色作事に成て井水宜敷所水道と堤
井と仕候物中に大分の義に成て
心に難儀仕候ゆえ
有之故一冬の内大雪
降積て毎度火事及申候御城内の

方小名川家鶴亀の水道と先清水に成物小屋と
其外東南の海北に成り中に水道一筋と
殊に高三丁程に成て水道と成て
仕候ゆえ
と有之故何と成共程に成て水道清水
に成て水を替り火事
一夏年に成て別に火付盗賊多有之
家義町人等の家に
仕候ゆえ
に成義に成て

[illegible]国元仕置[illegible]又ハ道筋[illegible]
の法刑罰[illegible]法[illegible]世上[illegible]仕置
[illegible]法[illegible]取扱仕候
右之通一昔[illegible]家[illegible]者[illegible]家の
事[illegible]縣[illegible]の刑[illegible]取扱[illegible]
[illegible]毎[illegible]生[illegible]日の間[illegible]
仕[illegible]十八九[illegible]不申[illegible]要人の
[illegible]
[illegible]曾[illegible]
の業世[illegible]火付[illegible]絶
不申[illegible]大英[illegible]有之[illegible]

人家[illegible]鎖[illegible]切[illegible]人[illegible]者[illegible]物[illegible]
[illegible]盜[illegible]不申[illegible]
例[illegible]仕[illegible]物[illegible]
[illegible]善[illegible]一殺[illegible]道[illegible]
鄭大夫子產相[illegible]已[illegible]中[illegible]大[illegible]
[illegible]法必[illegible]火[illegible]人
[illegible]火[illegible]水[illegible]
より[illegible]民[illegible]溺死[illegible]
[illegible]子
大叔[illegible]不用[illegible]法[illegible]仕[illegible]鄭国[illegible]

温多発熱に成り其時治療仕出し危体に相見へ
寒極二つの金義に古来有之義と浅深完角に
当り平日義を学ぶ人医の療治仕る邪気
治し難し必瀉薬を用ひ攻撃仕る邪気を去
る後漸補仕る句論温病の攻撃の剤当無之
邪気去て治補仕る相無之
一後漢書に法に海の如くすべし海に易避而難
犯と有之不易と名言平中義を海に海に
廣大明白の如く治法に海の如くすべし

旬り中者に無之に長海に海に
長海に必死中に中に犯し死に
生海術なく行先者に旬に之すべ
治法に海に旬に
必死不中に旬に至り又旬に中に
治に旬に自然に強人に
知に旬に治に海に
建に其外頭に無之
治

三月

一 水平治之中義 河尋常平上
大禹九州の水を治し其功皆下流から始し其
出方を修し地形の高下と考へ其一の
流を導き九州に同異別に帝都に為
治し其に滅水に高貢の異別に載
口と有之壺口と中山と きり用る水と通し
以義小治皆平外に 元 嘉別第一北界に為
元別治し其外に 嘉 書別徐別揚別荊別
豫別梁別と治し下から治上の水流を世当
叔雍別別と云り治し為に 嘉 の海に流

治に孔穎達書疏の禹貢之疏之以水勢下
流當從下而泄故治水皆從下始又案洪書
經之注云禹治水施功之序則皆自下流始
以疏數其勢乎外諸儒之說皆同
一 元来水は中流の物に当て 為の性に隨て中から
治し中儀道理の所に不易の定法と為
唐之末に以治戒世相續
く河水其外の川とも総治之事とさし少
捨置に当て 為 中流壅塞仕て 元 西に水の
中流に隨て河に治し中流に為り

水善利萬物而不爭流下也（三四字義ヲ）
治光不下山川下其坂位是無數義ヲ是
水出ル時ハ下ニ高流ル中ニ是無稽義ハ根源
ヲ尋ヌレハ川中ノ源ナリ為ハ必ヲ尋ヌレハ溢出ル
者ヲ治ル水者ヲ為義歴代毎度大ニ出ル大ニ
ノ田畑ヲ害ル為ニ陽堤又ハ石堤ヲ築テ陽
海ヲ堰ヲハ水益有ヲ上ニ為終ハ破ル
水善ル者義無ハ是ハ為ニ
治漢義有ヲ是ヲ相見ル
歴代水ヲ治ル漢義ヲ相見ル

の下ハ治ル外ハ無ヲ義ヲ相見ル漢の年書
と云者ハ上代ハ治ル為ニ堤ヲ決河深門ヲ
為水ヲ泄ル終ハ隄防ヲ築ル為水ヲ止ル是ヲ
兼ル河ヲ浚ル（サラエ）ヲ決ル有朝廷ハ養ハ又貢
徴と云者ハ隄防為水ヲ止ル是ハ小兒
の啼ヲ止ル言ヲ養如ク言ヲ啼止ル
如死ヲ止ル言ヲ隄防為ヲ止ル文為大
善出来ル中ハ為中の三策ヲ獻ル
者ヲ治世ハ為ヲ治ル付ル賈
穣ヲ三策ヲ上ハ天暑三策ヲハ

水ハ中陽仕物ハ当河上ハ川下の方ニ真栗ハ流
ハ海ハ海ハ何の害無之ハ浅ハ
海ハ水勝手ハ昔高手水と治ハ終ハ限ハ
水と成ハ見ハ見ハ角ハ主ハ流
ハハの治ハ敬水の通ハ道ハ当ハ流ハ
仙岡底柱ハ石なくハ中ハ陽ハ水と切通
養ハ禹貢ハ見ハ中ハ費用大分なハ
見ハ水道ハ定仕当長ハ無海の害有之
ハ見上策ハ中策ハ大河下流の
幾所ハ入口ハ所石柱ハ水門ハ仕当ハ大

水の勝ハ左右の合口ハ
知ハハ自然ハ外ハ海ハ中害有之ハ見
ハ分殺水ハ手当ハ害ハ救の要害ハ
枝下策ハ堤防ハ
の勝ハ河の限始ハ水ハ敬百間の物ハ
海ハ水分数里一日半の外ハ策中ハ
と堤ハ仕ハ仕ハ方ハ大の
勝ハ敗ハ故見ハ枝下策ハ

一

右禹貢下ハ治の法ハ賈譲三策の趣ハ
相考ハ新ハ第一の深沈の方ハ

而常に泄流とさるべし中流無滯極に仕事なる者
要の義なりたるべし大なる出る河川上と川
下との向背急に出て水の滞義無之者に
出る所只今のごとき弱くして滞中宿物
溢出中に急必定の理なるべし極川中の
方所に拔川と掘水と兩者中極に拔
て大水出る者多如此毎年一度又二度の術
なるべし年々度々に拔川に水を出
て昇堤の時分に用代に城中に注ぐ
漢成帝の時馮逡と中者治水の善と書

料簡仕る古渠を白渠と稱し河流を三股に設
し多勢と數を和仕る事なり仕る
出て秋中に出て大なる出て何程防ぎ
中なる者自中に流て高將都政の人を不敢
果て秋中に大なる河水大流なる四郡二十四
縣の地と成ることなり中に漢書に見て
出て將泄流とさるべし義に不能成出の
門水洞中時なるべし水の流と見て化の言
と相考成に中流なるべし或は出て
仕義に出て毎年常に仕義なる者は水の善

有之方式等を拵へ
明世宗嘉靖元年春久晴無雨ふるて河
水盡く涸り中に石有り郡中之人皆河道成
冗通仕れば相見られ其之益之時を考
当河と浚り義に法を出し杭州府
志河と浚り法と載り中に書上之中に
陳善曰遇旱而濬河道成水利之不可廢者
也但去土不深積岸間終帰復湮耳矣益余
聞之疏導之法宜于下流作壩俟濬既深後
啓壩令入水乃更設壩其上如初法濬之啓
之舞次柳北以漸而前則事有緒功可成朱子
所謂冗河無良法先於下流用功者是也蓋其
淤泥則以舟撓卸德勝壩態卿民取以糞田
役利既興災害復去雖勞使也
世意旱当水涸に付河時に河を浚る
故成夏之法を設入常に土砂を
夏涸に又冬其土砂既運不に出て生産
積置に当に頭を埋に当(何の益之益之高を)
雪強に土砂さ〳〵多を疏通仕に法に先川下
小流を石堰と作り水を堰せき〳〵せきと堰

水底の石と異の作小溝に溝石堰と称するを
通し又一堰の方に堰と設ける上と下と溝を
小溝作るを河上に[illegible]を[illegible]
作り堰辯次御池に有之溝に堰と一緒に作り
くい無之川筋小一切くい無辯の[illegible]次て御
[illegible]の小溝[illegible]
[illegible]中義[illegible]
由等能屬に運ひの[illegible]
義中に明[illegible]
呉序に水路治[illegible]

右箱書の趣と[illegible]相考[illegible]
[illegible]中義[illegible]の中に相見[illegible]
[illegible]中義[illegible]

三月廿二日

歩量寸尺の法正制[illegible]年傳[illegible]
[illegible]兼[illegible]

一正制云方量者為四九百畝註云一里三百歩
一歩八日本の六尺四方に歩百と畝と[illegible]
百坪百畝八一万坪三百畝八三万坪九百畝九[illegible]
坪[illegible]

中義元来井田の制三百歩四方九方洛の
地の中央に法を設け路程を洛中より其一方
の長さ三百歩以一里とし相去ること八百尺とし
法度とす

一 公羊傳注云百者六尺為歩三百歩為里計一
里有千八百尺十里則有萬八千尺（飛龍王制と同文小法度）

一 韵會云路程三百六十歩為里

一 明程大位算法統宗云歩五尺里三百六十歩

一 元朱世傑算学啓蒙云里法三百歩為一里
者當以方六尺為歩若三百六十歩為一里者
當以方五尺為歩

石一歩六尺の法当一里と三百歩と相当ること
其の法小一歩三百六十歩小歩成中に遠
方尺小歩と六尺小歩と遠小に一里の法小歩
中義無疑也

一 周の代小一歩と六尺と定中義の人の長の長
さ六尺中將小一歩と三尺小歩成中に遠 尤右義
足当六尺と定法也一歩中に小歩と敬尤
当家 石当尺一歩中に成中歩中に小歩
則時歩の長当法也司馬法云一舉足曰跬

々三尺両拳是曰歩々六尺〻有之小世義〻〻
法度〻然所ハ後世陸〻尺長ハ或ハ故後世の
六尺ハ人の一歩ハ為ハ物ハ也一歩
ハ是〻ようて路程の遠近ハ中時ハ五尺
と一歩〻仕ハ〻相見〻ハ古の三百歩ハ後世
の三百六十歩〻歩数ハ仕道里と積〻ハ時ハ
別ハ法度〻ハ〻ハ外田地等〻積〻ハ時
其後古法の〻〻二里三百歩の法〻捨不申
ハ相見ハ相見ハ宅角古今の尺長短有之故一
歩の法ハ諸〻法〻一里の長短ハ同事〻法度〻

王制曰古者以周尺八尺為歩今以周尺六尺四寸
為歩陳澔注云古者八寸為尺以周尺八尺為歩則
平者六尺四寸今以周尺六尺四寸為歩則者五尺
二寸二分是今歩比古歩毎歩剰出一尺二寸八分故
意ハ寸〻尺ハ仕清ハ八尺八分三平四寸ハ故八
寸尺ハ為八尺歩一歩ハ十寸の尺〻為六尺
四寸為法度〻今ハ有之〻〻王制ハ漢儒の集ム
所ハ也秦漢の時分なり〻ハ歩時ハ八
尺の六尺四寸と一歩〻仕故六尺〻為六八四尺八寸
故四寸と一寸ハ為四八二寸二分合〻十

寸尺の如く一寸二寸と云ふ者は右に分尺の分中
寸尺の六尺等の如くに分かつ一尺二寸分余り出れ
鄭玄註云周尺之數未詳聞也按礼制周猶以
十寸為尺蓋六國時多變乱法度或言周尺八寸
則步更為八々六十四寸
左氏制八寸為尺尺步ともに格別の長法なり
周礼儀礼等に載せる所は考へ難し前に周の時も
十寸を尺小行を分時法なり周礼に鎮圭尺
有二寸植圭九寸ともあり有之に鎮圭天子の時始て瑞玉を
十寸を尺小行を分時法なり植圭諸侯の時始て瑞玉を
[illegible]

[illegible]其上周に六尺法度前に引
中に公羊傳司馬法ともに通ずる所なり然
王制の說に十二律の法に九寸を尺法義とする有
三分寸周の末六國の時古法と変じ八寸
一尺八尺一步と云義出来たりと云故鄭
玄は六國の時多変乱法度と云為論外に
見るべし不中義と云なり

異國に云ふ三百六十歩と一里に仕る日年を所
六十歩の法と云ふ六々三百六十歩の法なり
異國の一里日年の六所の中間に其故関

東方六所と一里と位は終を集者の中と集
海は夫国の一里三百六十歩に一千八百尺と日本
当路程と集中は唐の曲尺当六尺寸と一歩に
位六尺当は無之に一所六十歩当に三百九十尺当
歩を右之通に八百尺と三百九十尺と陸海は
全部沈海中は歩数に三百尺平地に当て五尺
寸の法成に陸海は二十九歩当に唐尺
海は夫国の一里は日本の一里十所三十一間位夫
国の百里は日本の十二里三十二所十間位に当
中に日は甚敬武備を小日本の道里と載たり

一

甚注は名は十里に当て百里有て中は之数と
以本中に相見中は集者と法と
一国の將軍は尺は周尺成文公家礼義節に周
尺沈今新尺六寸四分弱に有之明朝の鈔尺
裁縫尺と云中は日本の曲尺高と但先
年水戸に在者は唐人来舞水中は鈔尺は日
本の曲尺当一尺六分半に高り此法に
周尺は大唐日本の曲尺当六寸宇宙本法
十二律又は先祖の神主と作り中は將は此尺
を用来り中は

一周已後歴代の尺不同有之候得共一代之尺の品多
候へ共明朝の路程と兼帯時の銅尺と用申
候由之候間尺ハ日本の曲尺に当る尺二寸五分
ハ唐り出舞水中ハ中庭之儀ハ二寸五分一里
三百二十歩ハ何も銅尺の若ハ竹尺之
一周尺の長さ先ハ曲尺の六寸四分弱の中間ハ
異国ニ而も周尺の長さ慥ニ相知不申ハ元来唐
尺の法ハ黄鐘の律ハ出申ハ黄鐘の律一ツ定
り申候ハ律度量衡を以法ハ黄鐘の
律ハ秬黍当定り其大量と申上ハ先
黄中ハ秬黍九粒横ニ並て十二百粒と実
中ハ黍一粒の長さ一分と合ハ定九粒黍ニ而ハ廣
さ横一分と定九合と定九十合と一升
十升と一斗十斗横一ハ定九中ハ是ニ而升米
中ハ又曰、鐘ハ十二百黍の重さ百黍横一銖と
定九ハ十二銖と定九ハ史公二十四銖
と一両十六両横一斤三十斤横一鈞四鈞と一石と
定九中ハ是ニ而権衡出来中ハ主故黄鐘と方
事の根本と中義ハ主故黄鐘と方
一黄鐘と十二律と定九中ハ法ハ黄鐘の律九

寸と成十律の終小は短く律長き分は
濁り短き分は高清濁者と云は黄鐘
九寸十律の中に為第一長き故を第一濁
と云は九寸と云ふして一分損は清は八寸と成
次林鐘律と生ずは林鐘は六寸と三分と
一分損は益は八寸と成大蔟律と生ずは大蔟
七寸成三分にして一分損は益は南
呂の律と生ずは南呂は五寸三分と成南
呂の律と生ずは南呂は五寸三分と三分にして
一分損は益は七寸分と成姑洗の律と生ずは姑
洗は七寸三分成三分にして一分損は四寸二分

六厘と成応鐘律と生ずは長ずるは三
分損は益して仲呂と成ずは六寸五分厘二毛四
絲六忽と成蕤賓律と生ずは五寸
不盡一絲有と云て不盡は出来ずして
成故律は十二に成ずは十二律の寸は
九分に成ずは十分寸の法に成ずは三分損
減は出来ずして別宮と成故法は
一異国に為長く雅楽に黄鐘の律と相違
義法は長く成ず歳の額に成ずは地の肥瘠と
四季の大小に不同有ては船橋に為相違仕来

一粒当ハ僅の義なり此法ハ千三百黍当ハ一寸の
内外之遠ハ其故隨書に十五寸の尺と奉
中ハ法度何も義ハ元の長短有之ハ尺度量
衡ハ支当相近ク不若法度ハ十二律宗
と遠当之相子和ス不ハ夫故第一音楽の
為ハ是後倉義仕ル中ハ法度
先黍ニ黄鐘の律と定一分元長短不同
ハ仕ル故ニ黍と載り之黍と却選免
管の口径上へ出し口ハ小ハ之と云ル
冬至ハ氣と候ハ勿論也ト云密室ハ仕り風

の入ハ中ハ極ハ冬至一陽の氣至ル也ハ
其管の中ハ氣充ル中ハ管中必灰と成ハ
中ハ法度先年 厳有院様 浅井上河内
守主計頭ヶ和の義と考中長と好ハ京都の
儒者山崎闇斎と申者ハ相中ハ仕ル方ニ
黍と集免ル大中之間無之ハ和ハ吟味仕り
黄鐘の律と作り中ハ是殷成之世ハ
乃慣と雅相知ル中集中ハ左先其時分定長
や京都京都細工人ハ指当仕ル周尺と云
ら也京ハ於今京都ハ出ル宣長ハ中ハ

内閣文庫

内閣文庫藏書

鶯鳩巢獻可錄後

余間嘗於
德廟昵近之家得敬孚王鳩巢室直清所撰之
策書十八篇其書之所載祭祀朝聘之紀封稼
選舉之制以至溝洫度量之細凡
令者之所及未嘗不分微探賾利害得失深明
世益人君握權於千歲之下欲倣治於三代之上者
於是乎有取焉至若彼以六經為長物以王道為
迂闊則　矣哉如此書不啻益世抑所以有益
于將來者備矣安可使之泯泯焉不概見於天

国立公文書館
National Archives of Japan

克明館藏書

下哉竊謂温室之事亦寫而藏之者少矣余甚憾之遂緝錄重訂名以獻可而示之同志前所摹行五常名義今尚列所得之篇中雖似重復以敎之所先政之所不敢謾閲之更揚以置篇首云

宝暦十年冬十月　南涯邨山海謹識

克明館藏書

克明館文庫印

克明館藏書

天理大學附屬天理圖書館

克明舖印
文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan